

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	多様な主体の連携・協働／環境教育
手法名	ニュータウン隣接の里地里山における地域と連携した保全活用活動
主体	NPO法人しろい環境塾
背景(地域の課題)	<p>都市部やニュータウン隣接の里地里山の保全・活用活動などにおいて、外部参加者を主体とした取り組みでは、地権者や地元農業者等との信頼関係の構築が特に重要であると言える。</p> <p>活動場所の確保や取り組みの継続を図るためには、地域課題に対する取り組みを進めると共に、地権者・地元農業者・ニュータウン住民など多様な主体間を調整し、その参加と連携を促していくためのきめ細やかな配慮が必要とされる。</p>
手法／方策の詳細	<p>1) 地元との関係作りを軸とした保全活動の実施(写真1・2) NPO法人しろい環境塾では、ニュータウンに隣接した里地里山フィールドにおいて、ニュータウン住民をはじめ外部参加者を中心に活動を行っている。里山の管理不足や谷津田における遊休農地の拡大等の地域課題に対する取り組みを進めることで、地権者や農業者等の地域のキーパーソンとのつながりを深め、地元の理解を得ながら活動フィールドの拡充することに成功している。 また会員の確保についても、ニュータウンには新住民が多くおり、写真パネルの展示を最寄り駅で行ったり、イベントを企画することで、参加者のすそ野を広げている。作業メニューを多様化することで、会員の適性や嗜好にあった活動ができるよう配慮している。</p> <p>2) 保全フィールドの環境教育等の利用(写真3・4) 保全されたフィールドを有効利用し、環境教育や市民交流活動など下記の取り組みを実施している。また、企業のCSR活動の受け入れなども行っている。 ・河川工事に伴うカメ等生き物の調査・保護活動 ・田んぼの学校 ・田んぼビオトープ作りと生き物調査 ・市民のための農業体験講座 ・森の音楽会や流しそうめん、収穫祭などのイベント</p> <p>3) 農業支援活動のサポート 人手不足に悩む地域の営農活動へのお手伝いを実施。また、会員の中で新規就農を目指す人も出てきており、実際に地元の有機農業に取り組む農業者の指導を受け、今年農業委員会で認定され農家になった人もいる。 耕作放棄地の解消や里地里山の保全のためにはその地域で農業者を育てることが重要であり、NPOが新規に農業をやりたい人、地元農家、指導者をつないでいく役割を果たしている。</p>
手法・技術的視点	<p>地権者・地元農家、ニュータウン住民といった属性の異なる主体間を調整しながら、地域課題に確実に取り組むことで、地域との信頼関係を構築し、活動内容やフィールドの拡充を着実に進めている。</p> <p>また里山の保全や耕作放棄田の生産農地化などに取り組むだけでなく、森の音楽会等の一般市民も親しめるイベントを開催している。こうした多様な活動の展開とヴァリエーションに富んだ作業メニューの設定など、取り組みを継続し活性化させるためのポイントや工夫点がみられ着目される。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>・NPO法人しろい環境塾における地域との関係づくりのステップ</p> <p>・NPO法人しろい環境塾における参加会員に対するコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動は楽しければ続かない 対等の関係で過去の仕事の話は聞かない 自由参加で縛りがない 作業メニューから好きな作業に参加できる
<p>図・写真資料</p>	<p>写真1 森の手入れ作業</p> <p>写真2 耕作放棄田の生産農地化作業</p> <p>写真3 田んぼの学校</p> <p>写真4 森の音楽会</p>
<p>参考資料</p>	<p>平成24年度里なび研修会in山口県パワーポイント資料(NPO法人しろい環境塾)</p>